

ダイズの病害虫防除対策（9月）

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがあります。独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>）等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和2年8月25日現在）

紫斑病

- （1）種子のへそを中心に表面に紫色の病斑を生じ、酷い場合は種皮の大部分が紫色になり、品質を低下させます。
- （2）薬剤防除はダイズの開花後 20～40 日後に 1～2 回実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。
- （3）収穫が遅れると発生が多くなるため、適期収穫を励行してください。また、収穫後に高水分のまま放置すると紫斑粒が増加するので、収穫後はすみやかに乾燥、脱穀を行ってください。

表1 紫斑病の防除薬剤

薬剤名	有効成分名	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10a当たり 使用量(散布液量)(注)	使用回数の制限 ※
ベルコート水和剤	イミノクタジン	M07	収穫7日前まで	1,000倍 (150～300L)	4回以内
Zボルドートレボン粉剤DL	エトフェンブ ロックス	3A	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※ 使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・イミノクタジンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、種子粉衣は1回以内)
- ・エトフェンブ ロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

吸実性カメムシ類

- （1）ダイズの開花期以降に飛来し、収穫期まで長期にわたって加害します。子実肥大の初期に吸汁されると子実がほとんど肥大しません。中期以降に吸汁されると変形、変色した子実となり、商品性が著しく低下します。
- （2）防除は、着莢期（8月中下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に1～2回薬剤散布を行ってください。
- （3）県内での主な発生種は、ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、クサギカメムシです。

表2 吸実性カメムシ類の防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用量 (散布液量)	使用回数 の制限※
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	2,000倍 (100～300 L)	2回以内
スタークル液剤10	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	2,000倍 (100～300 L)	2回以内
スミチオン乳剤	MEP	1B	収穫21日前まで	1,000倍 (100～300 L)	4回以内
ダントツフロアブル	クロチアニジン	4A	収穫7日前まで	2,500～5,000倍 (100～300 L)	3回以内
トレボン乳剤	エトフェンブ ロックス	3A	収穫14日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内
MR. ジョーカー粉剤DL	シラフルオフェン	3A	収穫7日前まで	4kg	2回以内
Zボルドートレボン粉剤DL	エトフェンブ ロックス	3A	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内
- ・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
- ・エトフェンブ ロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・シラフルオフェンを含む農薬の総使用回数：2回以内

マメシクイガ

- (1) 幼虫が莢内に食入して子実を食害し、品質低下や収量減少になります。
- (2) ダイズを連作すると発生量が増加することから、連作ほ場では注意してください。
- (3) 成虫は年1回、8月中旬頃に羽化します。日長時間に反応して発生するため、発生時期は大きく変動しません。8月5半旬頃の防除を基本とし、多発が予想される場合には9月1～2半旬にも追加防除を行ってください。

表3 マメシクイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用 用量 (散布液量)	使用回数 の制限※
サイアノックス乳剤	CYAP	1B	収穫7日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内
ダイアジノン粒剤5	ダイアジノン	1B	収穫30日前まで	4～6kg	4回以内
Zボルドートレボン粉剤DL	エトフェンプロックス	3A	収穫14日前まで	3～4kg	2回以内
	銅	M01			

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・CYAPを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・ダイアジノン：6回以内（但し、種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内（生育期の処理は4回以内））
- ・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

フタスジヒメハムシ

- (1) 成虫は葉や未熟莢を食害します。莢の表面が食害されると加害部が変色し、子実に黒斑が生じ、腐敗粒となり品質を低下させます。
- (2) 薬剤散布は子実肥大期（9月上～下旬頃）に実施してください。

表4 フタスジヒメハムシの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用 用量 (散布液量)	使用回数 の制限※
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3,000倍 (100～300 L)	2回以内
アルバリン粉剤DL	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3kg	2回以内
スタークル液剤10	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3,000倍 (100～300 L)	2回以内
スタークル粉剤DL	ジノテフラン	4A	収穫7日前まで	3kg	2回以内
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	4A	収穫7日前まで	2,000～4,000倍 (100～300 L)	3回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ジノテフランを含む農薬の総使用回数：3回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）
- ・クロチアニジンを含む農薬の総使用回数：4回以内（但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内）

ダイズサヤタマバエ

- (1) 幼虫が莢内に入り食害します。寄生されると莢の先端の生育が止まり、コブのようになります。
- (2) 成虫は開花期（8月上旬頃）～若莢期（8月下旬～9月上旬頃）に産卵するので、防除は着莢後期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に実施してください。その際、薬剤が莢に十分付着するようにしてください。

表5 ダイズサヤタマバエの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使用 用量 (散布液量)	使用回数 の制限※
スミチオン乳剤	MEP	1B	収穫21日前まで	1,000倍 (100～300 L)	4回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内

サヤムシガ類

- (1) ダイズサヤムシガやマメヒメサヤムシガがおり、幼虫が葉や莢を食害します。
- (2) 着莢期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に防除を実施してください。

表6 サヤムシガ類の防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使 用量（散布液量）	使用回数 の制限※
スミチオン乳剤	MEP	1B	収穫21日前まで	1,000倍 (100～300 L)	4回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・MEPを含む農薬の総使用回数：4回以内

シロイチモジマダラメイガ

- (1) 被害はマメシクイガに似ており、莢内に入って子実を食害します。
- (2) 着莢期（8月下旬頃）～子実肥大盛期（9月中旬頃）に防除を実施してください。

表7 シロイチモジマダラメイガの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使 用量（散布液量）	使用回数 の制限※
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	3A	収穫14日前まで	1,000倍 (100～300 L)	2回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数：2回以内

ハスモンヨトウ

ダイズでの被害はあまり見られませんが、若齢幼虫による葉の白変が目立ったら薬剤防除を実施してください。老齢幼虫には薬剤の効果が悪くことがあります。

表8 ハスモンヨトウの防除薬剤

薬剤名	有効成分	薬剤系統	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10 a 当たり使 用量（散布液量）	使用回数 の制限※
プレオフロアブル	ピリダリル	UN	収穫7日前まで	1,000～2,000倍 (100～300 L)	2回以内
ロムダンフロアブル	テブフェノジド	18	収穫14日前まで	2,000倍(100～300L)	3回以内

※使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

- ・ピリダリルを含む農薬の総使用回数：2回以内
- ・テブフェノジドを含む農薬の総使用回数：3回以内